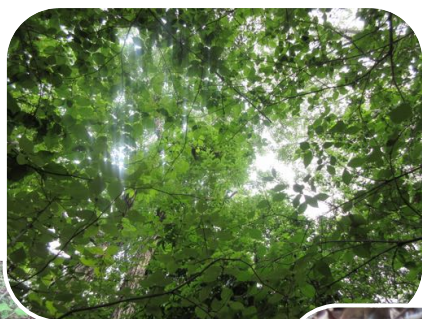


ありまふじ里山だより

Vol. 5

『ありまふじ里山だより』では、棚田里山エリアの自然の様子や里山保全に向けた取り組みについてご紹介します。Vol. 5 は里山の様子と福島大池に現れたフィールドサインについてお届けします。



梅雨入り

ようやく近畿地方も梅雨入りが発表され、里山の植物は嬉々としているようです。林内を歩けば、雨音だけが聞こえ、独特の静けさと凛とした空気があたりを包みこみます。

見上げれば、木々の葉が幾重にも重なり、その隙間からは太陽の日がキラキラと輝いています。

足元には、木々の実生が見られるようになってきました。日のよく当たる林縁と比べると、林内は1ヶ月ほどゆっくりと季節が進んでいる印象です。



福島大池のフィールドサイン

農繁期のためか、福島大池は水位が下がり、浅いところは底が露わになっています。よく見ると動物の足跡が。

人の手のような5本指の足跡はアライグマ。(右上)

錨マークのような足跡は水鳥が歩いた跡。蹠（みずかき）のような跡もうっすら見えるので、カモの仲間でしょうか。(左下)

何かを引きずったような2本の跡は、重い甲羅を背負ったカメでしょうか。(右下)

姿はなくても、足跡から様々な生き物がいることがわかります。福島大池に現れた、ひと時の楽しみでした。

